

助成年度：平成 27 年度

[所属] 東北大学 学際科学フロンティア研究所

[役職] 助教

[氏名] 藤岡 悠一郎

[課題]

里山生態系におけるトチノキ巨木林の立地環境と社会・生態的機能の 解明

[内容]

日本の森林の中には、直径や樹高がひとときわ大きい巨木が狭い範囲にまとまって生育する巨木林が成立する地域がある。他方、全国的な伐採圧の高まりとともに巨木の数は減少しており、巨木林がもつ社会的・生態的機能の学術的な解明が急務である。本研究では、里山という人の攪乱を強く受けて成立するトチノキ巨木林に注目し、東北地方、近畿地方、北陸地方の3地域を対象として、巨木の分布を決める立地環境を明らかにし、現代の社会－生態系における巨木林の機能を多面的に解明した。本課題では、既存の先行研究の整理と3地域における現地調査の実施、成果の発表を行った。東北地方では、福島県檜枝岐地域、山形県鶴岡市において現地調査を実施し、トチノキ巨木林の成立を確認した。それらの成立条件は、福島県檜枝岐においては崩壊による岩塊斜面という地質・地形条件が強く作用し、山形県鶴岡市においては数百年前の植樹や集落による共同利用という人為が強く作用していると考えられた。近畿地方では、これまでに調査を実施してきた滋賀県高島市朽木地域を中心に現地調査を実施した。トチノキ巨木林が立地する谷において植生調査を行い、巨木林の林分構造の特徴を明らかにした。また、トチノキ巨木林の生態的な機能を明らかにするため、野生動物によるトチノミの捕食状況について自動撮影カメラを用いて調査し、データを取得した。北陸地方においては、環境省が実施した巨木調査の結果を整理し、北陸地方における巨木の生育状況や伐採の状況について把握した。また、旧白峰村のチブリ尾根や旧吉野谷村の清水谷などの踏査を行い、トチノキが多く生育する林分の分布を確認した。これらの成果について、学会や講演会などにおいて計7件の発表を実施した。